

SB40 サイドイベント傍聴報告

2014年6月5日

一般社団法人海外環境協力センター (OECC)

本傍聴報告は、2014年6月4日～15日にドイツ・ボンで開催された国連気候変動枠組条約第40回補助機関会合 (SB40) において開催されたサイドイベントの傍聴報告です。

- タイトル： 途上国における緩和行動の支援～二国間クレジット制度 (JCM)、NAMAs等の推進～ (“Supporting mitigation actions in developing countries - Promotion of the JCM, NAMAs and other initiatives”)
- イベントの種類：サイドイベント
- 日時：2014年6月5日 (木) 15:00-16:30
- 主催：日本国環境省、GEC、OECC
- 会場：ドイツ環境省 (Wind)
- プレゼンター：北川 知克氏 (日本国環境副大臣)、増田 大美氏 (環境省地球環境局地球温暖化対策課課長補佐)、Dicky Edwin Hindarto 氏 (インドネシア JCM 事務局長)、白石 賢司氏 (地球環境センター (GEC) 事業部長)、金子 絵美氏 (OECC 研究員)

■ 概要

- 冒頭、北川環境副大臣から開催の挨拶がなされ、日本が低炭素社会実現のため JCM を通じて途上国への技術の普及、NAMA の中長期シナリオの策定、及び都市間連携の支援を積極的に進めていることが伝えられた。そして、環境省増田室長補佐から日本の気候変動緩和に係る政策・活動、Hindarto 氏から、インドネシアにおける JCM の進捗状況、GEC 白石事業部長から、FS やモデル事業の詳細、OECC 金子研究員から途上国における NAMA の策定支援に係る活動報告等が報告された。

■ 発表内容

1. 北川 知克氏 (日本国環境副大臣)
 - 気候変動問題は顕在化しており、国際社会が対応すべき問題である。2015年にパリで正しい選択を行い、各国がアイデアを共有し、行動を起こす必要がある。日本は、低炭素社会実現のため、JCM を通じて途上国に低炭素技術を普及させることを目指しており、既に 11 カ国で二国間合意文書を署名している。JCM の他、NAMA 策定支援、中長期シナリオの作成、都市間連携の支援を積極的に進めている。
2. 増田 大美氏 (環境省地球環境局地球温暖化対策課課長補佐)
 - 先進国が経験してきた環境問題を途上国において繰り返さないために、リープフロッグ型の低炭素成長モデルが必要である。

- NAMA においては戦略面（低炭素戦略）、技術面（JCM）、システム面（MRV、インベントリー、NC、BUR）の多方面から支援している。
- 戦略面（低炭素戦略）では、マレーシアのイスカンダールの **Green Economy, Green Community, Green, Environment** に対する支援例があり、またインドネシアでは、スラバヤ市と北九州市の都市間連携があげられる。
- JCM は日本と相手国との国際コンソーシアムを組むことで成立する。また、ADB や JICA と協力して新たなファイナンススキームを構築している。
- アジアにおける温室効果ガスインベントリー整備に関するワークショップ（WGIA）でインベントリー作成のキャパシティビルディングを行い、セクターレベルでの情報共有、National Communication、Biennial Update Report のサポートを行っている。

3. Dicky Edwin Hindarto氏（インドネシアJCM事務局長）

- インドネシアは JCM 制度の構築が最も進んでいる国の一つである。
- インドネシアの市場メカニズムのスキームは、多国間、二国間や地域間、国内の市場がある。JCM は二国間のスキームである。
- JCM の FS は、2010-2013 年で 75 件実施され、二国間の会合は 2 回開催されている。第二回目の会合において、省エネに関する方法論が 1 つ採択され、7 つの第三者機関（TPE）が認定された。
- CDM は複数の異なる指定運営組織（DOE）によるチェックが必要だが、JCM は 1 つの TPE だけで良い。また、方法論においては保守的なベースラインを利用する事で過剰な排出削減量の算出を回避している。
- JCM ではホスト国の DOE、民間企業、コンサルタントなどの参画機会がある。

4. 白石 賢司氏（GEC 事業部長）

- 日本は JCM 署名国を 3 年以内に 2013 年時点の 2 倍（16 カ国程度）にすることを目標としている。
- JCM は、プロジェクトに対する資金支援スキームであり、1,200 万ドルの資金支援の準備がある。
- JCM のモデルプロジェクトは、2013 年度に 10 件が採択されており、FS プロジェクトも相当数ある。FS プロジェクトは 2012 年度に 28 件、2013 年度には 26 件採択されており、調査費用は全て日本からの支援で実施される。
- JCM の支援活動の中で得られた教訓として、①JCM は日本だけでなく、ホスト国からの出資も必要である事、②MRV におけるデータ収集システムを確立する事があげられる。

5. 金子 絵美氏（OECC 研究員）

- OECC によってアジアの 4 カ国において NAMA の支援がなされている。モンゴルでは

エネルギー部門、カンボジアではバイオマス部門、ラオスでは交通部門、ベトナムでは廃棄物部門でそれぞれ NAMA の政策策定支援やボトムアップアプローチによるプロジェクト計画立案の支援が行われている。

- JCM についての最新情報を web 上に公開している。また、NAMA ガイドブックを配布している。

Q: (タイ国代表 Somnam 氏) JCM と NAMA の関係性を教えて欲しい。JCM を行う時に、日本は NAMA への公式な支援要請のフローがあるのか。

A: (金子 絵美氏 (OECC 研究員)) 公式に決まっているものはない。JCM と NAMA の関係性だが、NAMA は低炭素政策であり、JCM は資金スキームである。JCM は NAMA の大枠のもとでの資金スキームの一つである。

Q: (タイ国代表 Somnam 氏) インドネシアは、プロジェクト参加者として、どのように JCM に関わるのか。

A: (Dicky Edwin Hindarto 氏 (インドネシア JCM 事務局長)) JCM は柔軟なファイナンススキームである。例えばセメントのプロジェクトでは、プロジェクト参加者間で排出削減の分配について議論を行う。日本はファイナンススキームだけでなく、キャパシティビルディングを通じて支援を行う。JCM はインドネシアの企業が主導してプロジェクトを進めることもできる。

Q: (バングラデシュ国代表 Rabbi Ahmed 氏) NAMA と JCM の関係が複雑だと感じる。JCM はホスト国にとってどのようなインセンティブがあるのか。クレジット価格が変動したり、CDM よりも排出削減量が少なくなるメカニズムであるならば、排出量が少ない国で実施するメリットはあるのか。

A: (白石 賢司氏 (GEC 事業部長)) JCM はファイナンス面でホスト国にインセンティブを与えるメカニズムであり、市場が決めるクレジットを生むものではない。日本の支援政策なので、ホスト国が支援を得るには少なくとも日本の企業を一つ入れる必要がある。JCM は地域バランスを考慮するので LDC でもプロジェクトを実施する可能性は十分ある。MRV に係る費用については今後の議論によるが、日本が支援を行う用意がある。

Q: (Patrick Burgi, 氏, South Pole Carbon Asset Management Ltd.) 交渉の観点から、日本はどのように JCM を FVA の枠組みに組み込んでいくのか。2015 年合意における JCM の立ち位置は？

A: (増田 大美氏 (環境省課長補佐)) UNFCCC の多国間の議論と二国間の議論について、詳細を詰める必要がある。JCM の立ち位置については、現在も議論中の議題である。Nationally Determined Contributions (NDCs) も同様である。JCM では、国家間の責任の下で、柔軟な方法論を策定する事ができる。



これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official report by the meeting organizer. Do not quote.

Q: (Patrick Burgi,氏, South Pole Carbon Asset Management Ltd.) ホスト国の観点から、クレジットのダブルカウントについて、どのように管理するのか。

A: (Dicky Edwin Hindarto 氏 (インドネシア JCM 事務局長)) クレジットの移転は FVA の下で、日本とインドネシア間で行われる。我々は、登録簿を用意し、レポートを行うことで透明性を担保し、ダブルカウントを防ぐ。

(報告者 : OECC 木村 進一)

サイドイベント傍聴報告については以下をご覧ください。

日本語版

http://www.mmechanisms.org/info/event/details_oecc_SB40report.html

英語版

http://www.mmechanisms.org/e/info/event/details_oecc_SB40report.html